令和5年度　喜連中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1　「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

(1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

(2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

(3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

(4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2　「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

(1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。

(2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

(3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3　「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

(1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。

(2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和5年度　喜連中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

1　全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）			平均無解答率（%）		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3　年	学校	182	62	43	37	6.3	14.5	8.7
	大阪市	―	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	―	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2　中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数（人）	平均点（点）					平均無解答率（%）				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3　年	学校	182	55.2	52.9	49.6	43.9	47.2	13.9	3.8	13.9	8.9	9.4
	大阪市	―	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	―	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2　年	学校	183	62.5	47.2	45.3	33.1	45.2	10.5	4.0	13.6	13.2	12.2
	大阪市	―	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.2	11.1	8.6
	大阪府	―	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1　年	学校	157	53.4	45.8	47.1	63.0	57.9	9.1	5.6	11.0	0.9	5.3
	大阪市	―	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	8.7	1.9	4.3
	大阪府	―	60.8		54.7		64.1	9.6		9.6		4.9

※　1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※　1年生の理科は化学的領域を選択

※　2年生の社会はA問題を選択　2年生の理科はB問題を選択

※　3年生の理科はC問題を選択

3　大阪市英語力調査（GTEC）

学年 実施月日		生徒数（人）	読むこと【リーディング】（スコア）	聞くこと【リスニング】（スコア）	書くこと【ライティング】（スコア）	話すこと【スピーキング】（スコア）
3　年	学校	182	89.8	91.3	108.1	81.2
	大阪市	―	101.3	107.7	137.9	102.2

令和5年度　喜連中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

【成果と課題】
〇中学生チャレンジテスト（1年）
＜国語＞
全体の平均正答率では府平均を7.4ポイント下回り、市平均を7.2ポイント下回っている。無回答率では府平均を0.5ポイント下回り、市平均を0.4ポイント上回っている。
領域別での平均正答率では、
・言葉の特徴や使い方に関する事項おいて府平均を1.7ポイント下回り、市平均を1.5ポイント下回っている。
・情報の扱い方に関する事項において府平均を0.2ポイント下回り、市平均を0.2ポイント下回っている。
・我が国の言語文化に関する事項において府平均を2.0ポイント下回り、市平均を1.9ポイント下回っている。
・話すこと・聞くことに関する事項において府平均を1.8ポイント下回り、市平均を1.7ポイント下回っている。
・書くことに関する事項において府平均を1.1ポイント下回り、市平均を1.2ポイント下回っている。
・読むことに関する事項において府平均を2.7ポイント下回り、市平均を2.8ポイント下回っている。
＜社会＞
全体の平均正答率では市平均を10.2ポイント下回り、無回答率では市平均を0.4ポイント上回っている。
領域別での平均正答率では、
・地理的分野に関する事項において市平均を8.6ポイント下回っている。
・歴史的分野に関する事項において市平均を11.6ポイント下回っている。
＜数学＞
全体の平均正答率では府平均を7.6ポイント下回り、市平均を8.3ポイント下回っている。無回答率では府平均を1.4ポイント上回り、市平均を2.3ポイント上回っている。
領域別での平均正答率では、
・数と式に関する事項において府平均を2.7ポイント下回り、市平均を3.2ポイント下回っている。
・図形に関する事項において府平均を1.8ポイント下回り、市平均を2.0ポイント下回っている。
・関数に関する事項において府平均を3.1ポイント下回り、市平均を3.2ポイント下回っている。
＜理科＞
全体の平均正答率では市平均を0.8ポイント上回り、無回答率では市平均を1.0ポイント下回っている。
領域別での平均正答率では、
・「粒子」に関する事項において市平均を1.1ポイント下回っている。
・「生命」に関する事項において市平均を3.4ポイント上回っている。
＜英語＞
全体の平均正答率では府平均を6.2ポイント下回り、市平均を6.2ポイント下回っている。無回答率では府平均を0.4ポイント上回り、市平均を1.0ポイント上回っている。
領域別での平均正答率では、
・聞くことに関する事項において府平均を1.5ポイント下回り、市平均を1.6ポイント下回っている。
・読むことに関する事項において府平均を3.9ポイント下回り、市平均を3.8ポイント下回っている。
・書くことに関する事項において府平均を0.9ポイント下回り、市平均を0.9ポイント下回っている。

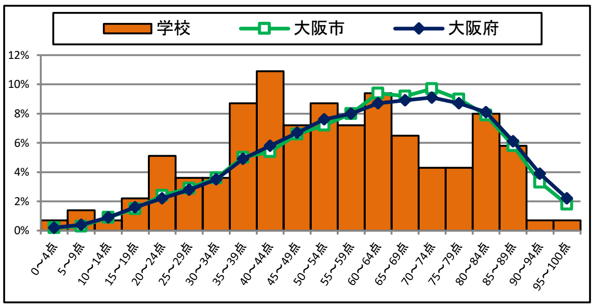
【今後に向けて】
＜国語＞
・基礎的な言葉の特徴や使い方に関する知識を定着させるため、繰り返し練習し、覚えさせる必要がある。
・話すこと・聞くことに関して、聞き手に分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えさせる学習活動が必要がある。
・書くことに関しては、特に、「目的に応じて、異なる立場や考えを想定しながら、伝える内容を検討することができる。」という趣旨の問題の無回答率が89.7%だった。府平均と比べると20%の差がある。読んだ文章に関して自分の考えを効果的に伝える文章を書くような学習活動が必要である。
・読むことに関して、物語文では、個々の場面から直接わかることだけでなく、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結びつけて解釈し、論説文では、段落の役割や、全体と部分の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取ることができるよう、対話的な学習活動が必要である。
＜社会＞
主体的な学びを育成する授業を展開していたが、今回の結果となった。この結果を真摯に受け止め、主体的な学習を育成しつつ、知識を必要とする試験に対応できるような授業を展開できるように取り組みたい。
＜数学＞
数と式に関する事項においては、大阪府平均を上回っている問題もあった。しかし「関数に関する事項」および「図形に関する事項」についての問題については、すべからく府平均を大幅に下回っている。これは新しい内容の指導時に、指導者がさっと説明して、すぐに練習問題に移る授業形態が1つの原因であると考えられる。生徒たちが理解・納得できない段階で、「習うより慣れよ」式の考え方で、短期記憶にしか残らない授業を行ってきたという反省がある。授業だけでなく、テスト問題の内容、テストの解説、テストのやり直し等、丁寧に行い、長期記憶に残る指導を考えていく必要がある。
＜理科＞
カテゴリー別正答率の結果から、選択肢の問題では、市の平均を1．7%上回っていることから，粒子の分野や生命の分野の知識は一定習得していることが分かった。しかし、記述の問題では、12%程度市の平均よりも下回っている。2年生では、単語の習得だけでなく、文章化し自分の考えを述べる習慣をつけさせる。1年生の段階で無回答率を下げるために，授業内，課題等の中で練習を行っている。来年度以降も継続して行うことで無回答率0%を目指す。
記述問題については，思考力の低さが平均点を大きく下回った理由として考えられるため，教科書の「活用」問題にを用いて，既習事項から考察を行う練習を行う。
＜英語＞
読むことに関する事項がほかの事項に比べ、著しく下回っている。今後は単語や短文だけでなく、まとまった英文を精読する力をつけるようにしたい。また、英語を聞く力をつけるために、デジタル教材を効果的に活用していきたい。

大阪市立喜連中学校　　令和5年度「中学生チャレンジテスト（1年生）」 検証用グラフ

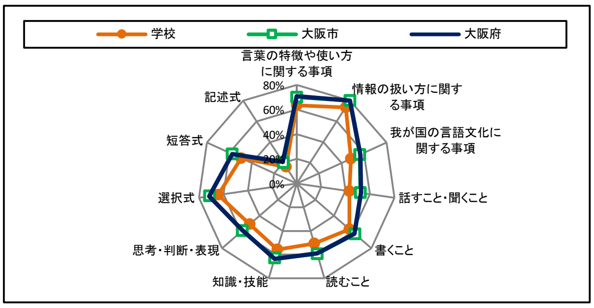
令和6年1月10日（水）実施

【　国　語　】

【得点分布】

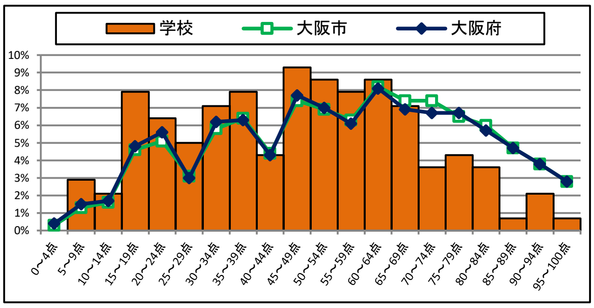


【領域・観点・問題別の分布】

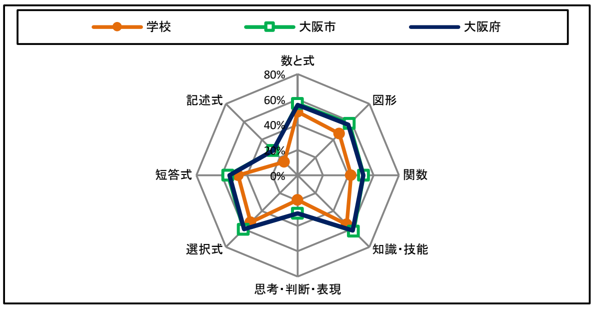


【　数　学　】

【得点分布】

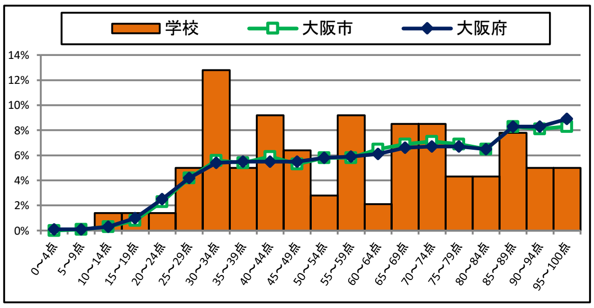


【領域・観点・問題別の分布】

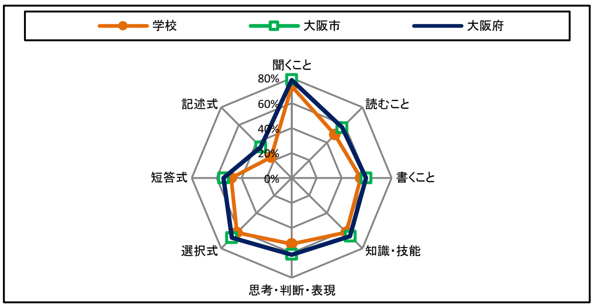


【　英　語　】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

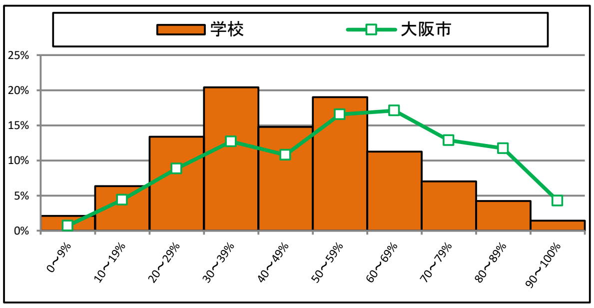


大阪市立喜連中学校　　令和５年度「大阪市版チャレンジテストplus（１年生）」検証用グラフ

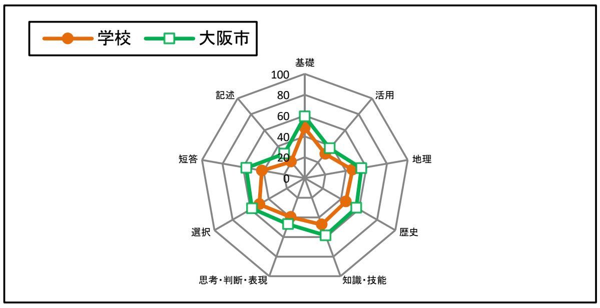
令和6年1月10日（水）実施

【　社　会　】

【正答率分布】

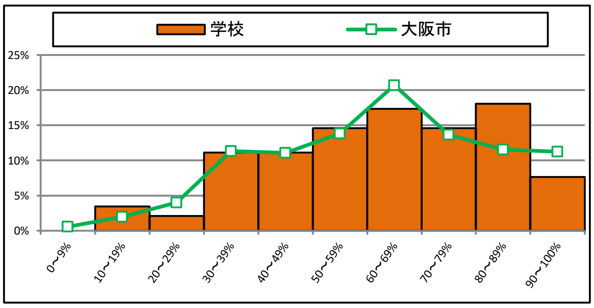
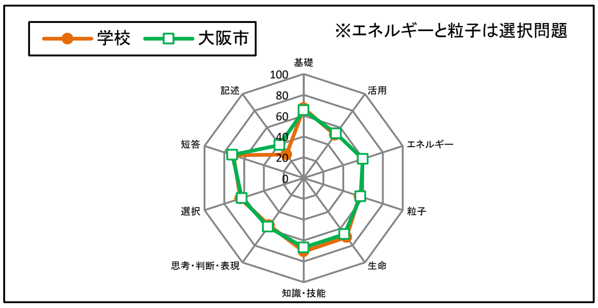


【領域・観点・問題別の分布】



【　理　科　】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】